

## 「情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用」の編集にあたって

城 和 貴†

今年度第1回目のTOMの発刊です。計画では7月に発刊だったので、今年度こそは予定どおりに発刊しようと、6月に入ると同時に編集作業に着手したのですが、やっぱり遅くなってしまいました。毎度のことなのですが、事務局には大変ご迷惑をおかけしているとは認識しております。認識しているなら早く作業を進めればいいのですが、なかなか思ったようには進まないものです。平成19年度はすでにMPS64(平成19年5月)に6件、MPS66(平成19年9月)に16件の投稿がありました。このほか、特集号として14件の投稿があり、これは近々編集作業に入れるかと思えます。いずれにしても、年度内にあと2回発刊の予定は変わらないと思います。

TOMには論文のカテゴリーとして、オリジナル論文のほかに事例紹介論文、サーベイ論文がありますが、このたび新たにシステム開発論文というカテゴリーをもうけることになりました。システム開発論文とは、これまで解決できなかった問題や、解決がコスト等のため難しかった問題に、提案システムを適用することで、それらが新たに解決されたり、効率良く解決されたりすることを報告する論文です。これまでに、特に企業の研究者の方々から、システムを開発しても論文になりにくい、という不満を聞いてきましたが、システムを開発することによる問題解決は数理モデルによる問題解決に劣るものではない、という編集委員会での合意がなされ、新しいカテゴリーの追加となったわけです。システム開発論文は事例紹介論文と同じような形で、オリジナル論文とは異なる観点からの価値ある論文として、積極的にTOMに採録していきたいと

思いますので、「システム開発論文」としてのご投稿をよろしく願いたします。

TOM18では、2006年12月のMPS62(東京)から5編、2007年3月のMPS63(松島)から10編、2006年度研究会非連動投稿から1編のオリジナル論文と、2006年度研究会非連動投稿から1編の事例紹介論文の合計17編を掲載しています。TOM18に関する採録論文数/投稿論文数は17/33で採択率は51.5%でした。

今号の採録論文17編の担当編集委員は、安藤晋、北栄輔、北上始、栗原聡、栗原正仁、笹倉万里子、佐藤彰洋、鈴木智也、関嶋政和、高階知巳、藤本典幸、古谷博史、Paul Horton、中條拓伯、古瀬慶博となっています。

なお、今年度から新たに編集委員になっていただいた方は下記のとおりです。海蔵寺大成国際基督教大学、久保山哲二東京大学(以上敬称略)。ほかにも現在依頼中の方が数名います。

配布部数につきましては、900部を予定しております。なお、論文誌の定期購読制度もありますので、ぜひ、こちらもご利用ください。また、研究会開催記録、研究会登録案内、投稿案内などに関する最新の情報はすべてWWWページ上に掲載しております。すべての情報は研究会ウェブページ(<http://www.ipsj.or.jp/sig/mps/>)よりたどることができますので、MPS研究会および論文誌TOMに関しては、そちらをご参照くださいますよう、お願い申し上げます。

† 情報処理学会論文誌「数理モデル化と応用」編集委員長  
奈良女子大学